臨床実習Ⅱ　消化器内科　問題

１．(消化管)　70歳男性。主訴：ふらつき。

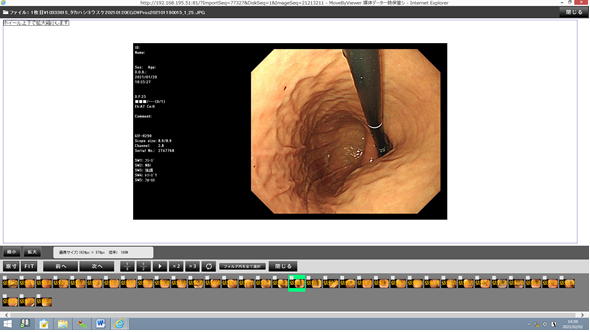
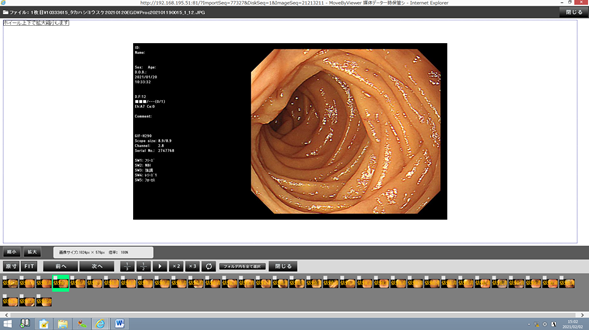
1か月前よりふらつきを自覚していた。3週間前に血液検査でHb5.4と著明な貧血を認めた。

1. 貧血の原因を検索するうえで適切でない検査を2つ選べ
2. 単純X線検査
3. 上部消化管内視鏡検査
4. 下部消化管内視鏡検査
5. 胸腹部骨盤CT
6. MRCP(磁気共鳴胆管膵管造影)

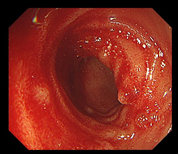
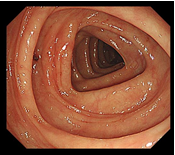
胸腹部骨盤CTを施行したが、明らかな貧血の原因を認めなかったため、鉄剤を処方し、一旦帰宅させた。出血部位の精査のため、2週間前に上部、下部内視鏡検査を施行した。上部消化管検査では、胃前底部にびらんを認めたのみであった。下部内視鏡検査では、終末回腸に血性成分を認めたが、大腸には明らかな出血所見を認めなかったため、小腸出血が疑われた。その後の検査で回腸末端に血性成分の貯留が指摘され、治療のため入院した。

【画像所見】

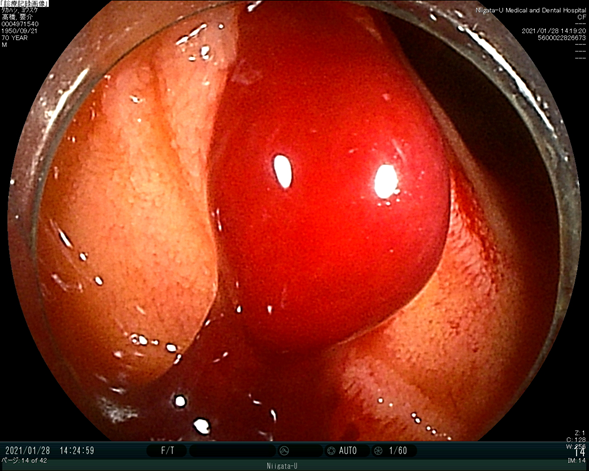
上部消化管内視鏡：胃、十二指腸に出血の所見は見られない。



下部消化管内視鏡：終末回腸に血性所見を認めるが、大腸に明らかな出血源を認めない。



小腸内視鏡：回腸末端に血性成分の貯留を認めた。



【血液検査所見】

TP 6.3g/dL, Alb 3.8g/dL, CK 64, AST 21IU/L, ALT 18IU/L, LD 181 , ALP 63IU/L, γ-GTP 24IU/L, ChE 178, AMY 94IU/L, Cre 0.75, eGFR 78.51, UA 6.1, BUN 15, Na 140mEq/L, K 3.9mEq/L, Cl 108mEq/L, Ca 8.5mEq/L, P 2.6mEq/L, T-Bil 0.9mg/dL, D-Bil 0.1mg/dL, WBC 4280, RBC 288万, Hb 7.0g/dL, Ht 24.1%, Plt 28.6万 MCV 83.7, MCH 24.3, MCHC 29.0, APTT 28.4, PT 64%, FDP 1.2, CRP 0.07mg/dL

1. 小腸の出血部位の把握のために次に行う検査として最も適切なものを一つ選べ。
2. カプセル内視鏡
3. 超音波内視鏡
4. ダブルバルーン内視鏡
5. ERCP(内視鏡的逆行性胆管膵管造影)
6. 下部消化管内視鏡再検

2．(肝)　53歳女性。

【病歴】

30年前にC型慢性肝炎の指摘を受けて治療を開始し、14年前にHCVの陰性化を確認した。

7年前、肝腫瘍に対して肝右葉切除、胆嚢摘出術を施行した。

6年前、傍大動脈リンパ節転移の診断を受け、開腹リンパ節郭清術を受けた。

【現病歴】

1年前の3月から腫瘍マーカーが上昇傾向であったため、CT、MRI、PET-CTを施行したが、画像より腫瘍を疑う所見はなかった。その後経過観察をしていたが、腫瘍マーカーの上昇持続していた。2か月前にMRIを施行したところ、残肝外側部に小さな腫瘍性病変を認めた。

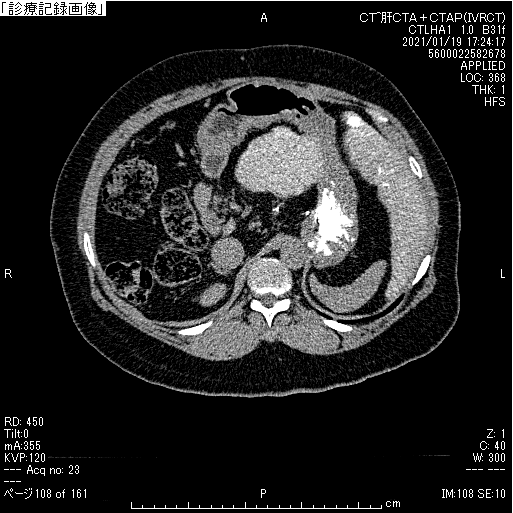
【血液検査所見】

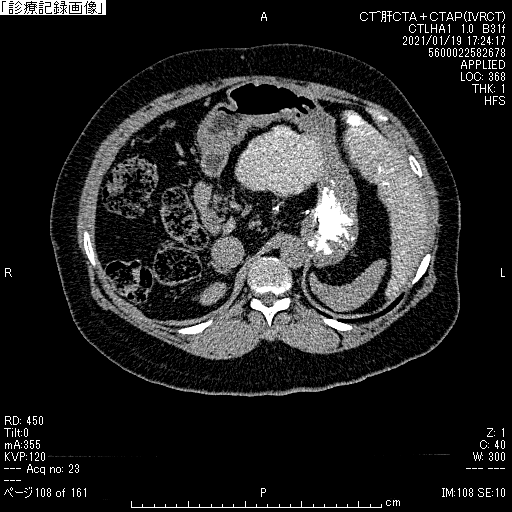
TP 7.7g/dL, Alb 4.2g/dL, CK 264, AST 31IU/L, ALT 23IU/L, LD 311 , ALP 128IU/L, γ-GTP 23IU/L, ChE 397, AMY 57IU/L, Cre 0.76, eGFR 61.94, UA 9.1mg/dL, BUN 7mg/dL, NH3 95, 空腹時血糖 109, HbA1c 6.5, 中性脂肪 75mg/dL, T-Chol 199mg/dL, HDL-C 73, LDL-C 107, Na 142mEq/L, K 3.5mEq/L, Cl 103mEq/L, Ca 9.6mEq/L, P 3.7mEq/L, T-Bil 0.9mg/dL, D-Bil 0.2mg/dL, WBC 5970/µL, RBC 468万, Hb 14.1g/dL, Ht 42.7%, Plt 30.8万/µL MCV 91.2, MCH 30.1, MCHC 33.0, APTT 24.2, PT 117%, IgG 1425, IgA 163, IgG 48, CRP 0.64mg/dL, HBs抗体価 0.27, HCV抗体(+)

2週間前にCTAを施行したところ、以下のような画像が得られた。

肝臓は赤い矢印で、脾臓を青い矢印で示した。

A　第1相　　　　　　　　　　　　　　　　B　第2相





1. 患者背景、血液検査所見、造影CT画像より、最も疑われる疾患はどれか。
2. 肝膿瘍
3. 肝血管腫
4. 肝細胞癌
5. 肝嚢胞
6. 肝内胆管癌

患者背景や造影CTからこの腫瘍性病変は肝細胞癌と考えられたため、TACE(肝動脈化学塞栓療法)で治療を行った。

1. TACEを最も行いにくい条件を1つ選べ
2. 腫瘍数4個以上
3. 腫瘍径3㎝以上
4. 肝障害度B
5. 腫瘍による門脈塞栓がある
6. 肝細胞癌破裂
7. この患者に対するTACEの治療効果の有無を判定するうえで、有用だと考えられる血液検査項目を2つ選べ
8. AFP
9. PSA
10. SCC
11. hCG
12. PIVKA-Ⅱ

解答

1．

問1　(1)、(5)

問2　(3)

2．

問1　(3)

問2　(4)

問3　(1)、(5)